

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

参考事例

< 事例概要 >

（胃瘻造設）

・ 80 歳代、脳出血後遺症、繰り返す誤嚥性肺炎で当該医療機関に入院中の患者。四肢拘縮あり。BMI 14.2 kg/m²。

・ 経口摂取が困難なため、当該医療機関で胃瘻造設を決定。経皮内視鏡的胃瘻造設術で、バンパー型カテーテルを使用し、胃角部前庭に造設。術中、食道胃接合部と胃体上部より出血あり、マロリーワイス症候群を疑い、消化性潰瘍治療薬を散布し終了。

・ 術後 1 日目、顔面蒼白あり。CT検査で腹腔内遊離ガスと胃内の多量出血を認め、術後 2 日目に死亡。

・ 死因は、食道裂傷からの粘膜損傷、縦隔洞炎による敗血症性ショック（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。